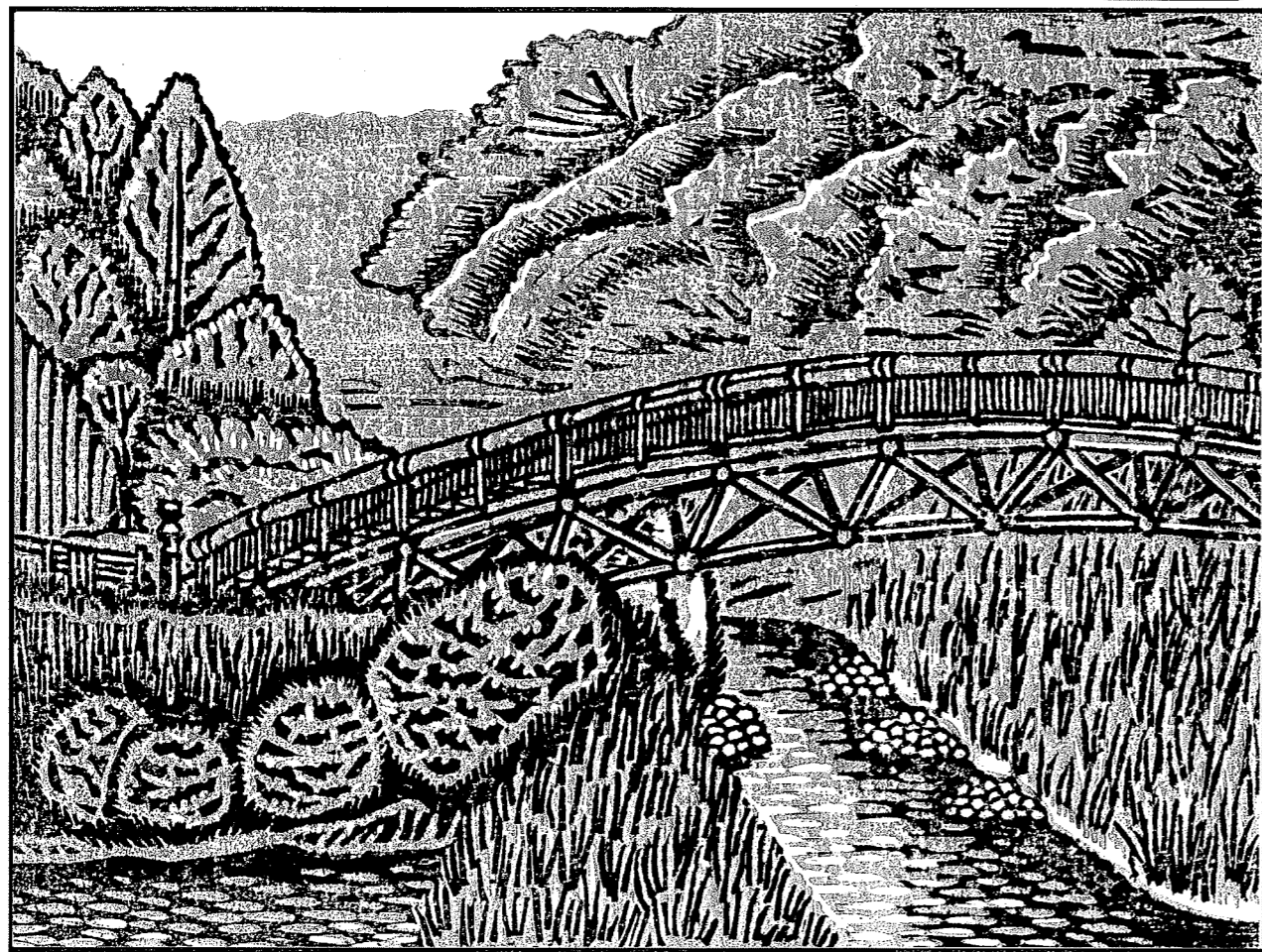


# いたちがわらばん

鮎川・狹川・川原番・瓦版 夏号



版画 宗森英夫

一番新しい橋「扇橋」

赤い太鼓橋「扇橋」(おおきほし)が開通!

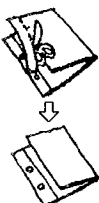
下から見上げると鉄骨の骨組みが幾何学的で、末広の形をした赤い欄干が美しい人道橋です。渡り口の一端は、登りの途中まで中央のスロープを挟んで両側は階段になっている、ちょっと変わった太鼓橋で、もう一端の道路への入り口に車止めの柵があります。子どもも大人も、橋の真ん中の一番高い所から身を乗り出して川面を覗き込む姿が見られます。眼下には、大きなコイや小さな魚が群れて泳ぎ、ヨシの茂みが見下ろせる眺めは、散歩の楽しみを倍にしてくれます。近くに公園もあり、散策の人が遠回りのコースにしたり、近くの家から買い物への近道にと、多くの人が通ります。犬の散歩や幼児の姿もよく見かけます。欄干の柱や鉄柵の間隔が広いところもあるので、よりよち歩きや乳幼児なら、すり抜けて落ちる危険もありそうに思えます。みなさん渡ってみて、「意見・ご感想を投稿してくださいませんか。」

四隅の橋柱のところに、「タイムカプセル」が入れています。さて、どこかわかりますか。また、いつになったら取り出すかも楽しみですね。「いたちがわらばん」にみんなの絵や感想をどんどん載せて、みんなが興味を持ってくれると同時に、街づくりへの意見としてみなさんで考えをきっかけに変わらねばいいと思います。

広報よこはま栄区版の月号には、写真とともに扇橋の開通の様子が載っています。併せてご覧下さい。

(NVSJ)

この部分を切り取ると便利です。



学校の活動報告(4)

## 西本郷小に ふれあい池ができた

西本郷小学校では、毎年プール清掃のとき、たくさんのヤゴを見つけます。その一部は生活科の学習でトンボになるまでペットボトルで飼育しています。自然に近い池があればとの願いが、栄土木事務所の和久井さんたちの指導のもと、5年生が作業にかかり実現しました。



ぼくたちは、和久井さんのお話を聞いて、学校の周りが田んぼや小川だったことを知り、びっくりしました。今は、この辺りにいないホタルもたくさんいたそうです。トンボにもいろいろな種類がいることも教えていただきました。ぼくたちの力でも自然のような池が作れると分かりわくわくしました。

さっそく、池づくりが始まりました。池には荒木田土が入られており、裸足で入るとズブズブと沈み、膝まで埋まるくらいで、足が抜けなくて、友達に引っ張ってもらいました。でも、土の感触が冷たくて気持ちよかったです。みんなでコンクリートの壁につかまり、足踏みするようにこねていきました。次に壁に土を張りつけ、水草を入れたり、ショウブを植えたり、ヤナギの枝をさしたりしました。初めは、ミニプールのようだった池が自然に近い池になりました。「やった。ついに完成。」

最近、学校でトンボをよく見かけます。池の水草にヤゴのぬけがらがたくさんついているのも見分かりました。背中に割れ目がありセミと同じように出てくることも分かりました。ぼくたちがプールから池に移したヤゴがトンボになったのだと思うととてもうれしいです。さらに全身泥だらけになりながら植えた、水草、ショウブ、ホテイアオイ、ヤナギなども根付き元気に育っています。こんなすてきな池ができたので、ずっと大切にして、自然とふれあえる憩いの場としていきたいです。

(西本郷小学校ふれあい池実行委員)

愛護会の活動報告(4)

## 上洗井沢水辺愛護会より

上洗井沢水辺愛護会は、荒井沢の水辺環境をきれいにする活動を行うため、荒井沢市民の森愛護会と会員・組織を同一にして、平成11年に設立されました。会員は約80名です。

洗井沢川は、鎌倉市との境に位置する荒井沢市民の森に源を発し、天神橋でいたち川に注いでいます。源は、瀬上池と同じくかつては溜め池でした。現在は上の池と下の池の土手が残っています。この池には東海道新幹線の工事がおこなわれるときまで水が張られていたそうです。荒井沢の巨大な崖は、工事で山砂が掘削されてできたもので、その工事の最後に余ったダイナマイトで池の水門が爆破されたという今では信じられない話が伝わっています。

写真は下流でゴミ拾いと草刈りをしているところです。中ほどは、建設廃棄物等で埋まっていたところが整備されましたが川沿いを歩くことはできません。上流は昔からの小川となっています。また、小川の水を引いた足洗い場が設けられ、近くの公田小、桂台小、矢沢小の田植え・稲刈りの体験学習に利用されています。

活動は、毎月第2日曜日に、ゴミ拾いと草刈りを行っています。綺麗な環境にしよう、子供達が遊べる場を増やしたい、汗を流し、その後の一杯を楽しみにしたいなどという方を募集中。会費は無料。

最後に荒井沢市民の森、小川アメニティともゴミ箱は設けてありませんので、自分の出したゴミはお持ち帰り願います。ちょっとしたことで気持ちよく散歩することができます。(文責 西川文敏)



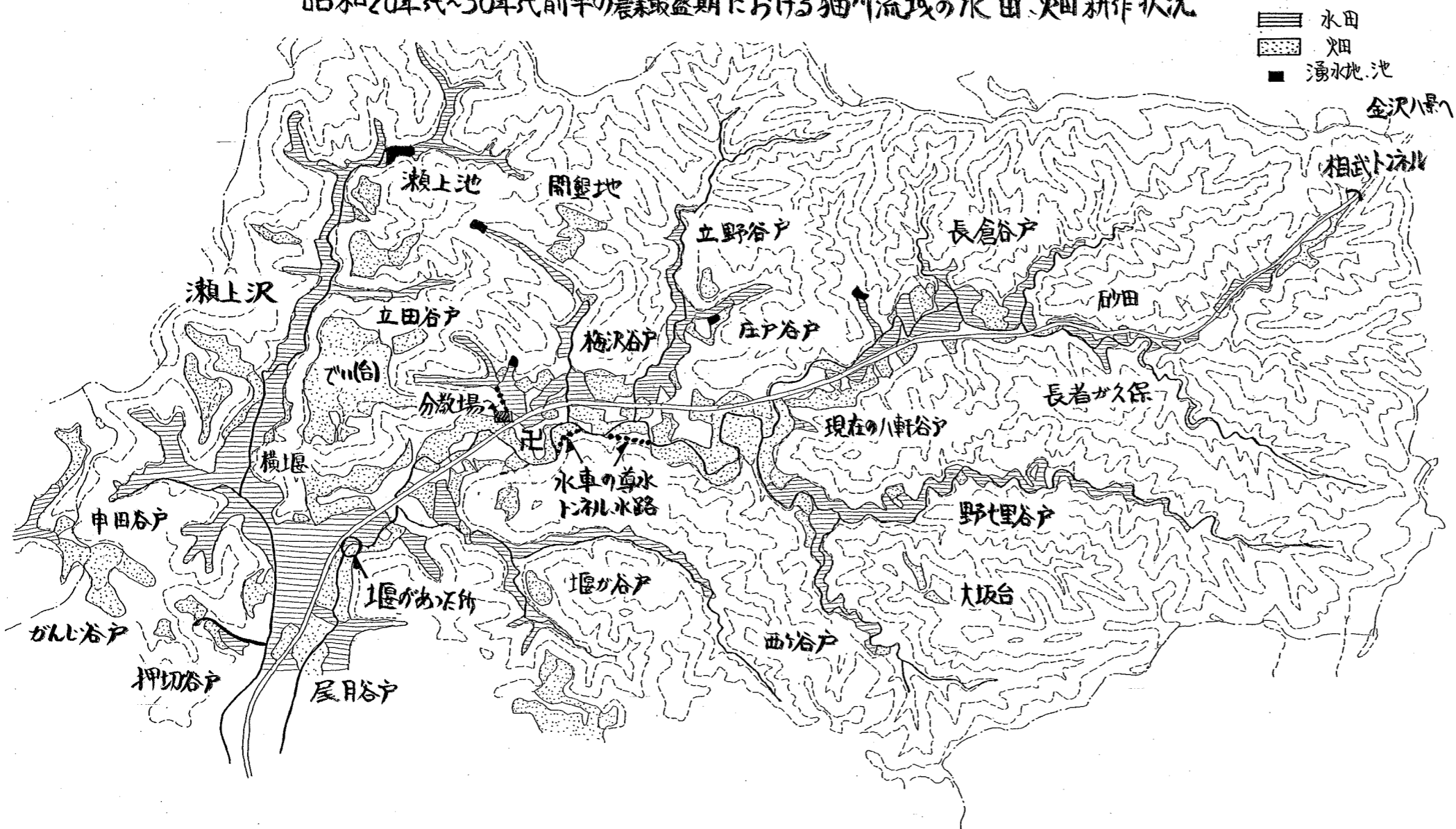
発行年月  
2001年8月

(通刊 14号)

発行：狹川OTASUKE隊 (いたちがわおたすけたい)

OTASUKE隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19  
TEL 045-894-8331 FAX 045-895-2260  
栄土木事務所下水道係 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-6-1  
TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421  
(お便り・お問い合わせはこちらまで)

# 昭和20年代~30年代前半の農業最盛期における油川流域の水田、畑耕作状況



本号から3回にわたりいたち川流域における農業が最も盛んな頃の水田、畑の耕作状況を紹介します。

新しい団地が出来る前の上郷地区の状況を角田正一さん、森秀男さんにお聞きしたものが、左の地図です。いたち川の両側、さらにたくさんの支流(〇〇堀と呼ぶ。)の両側は、先祖代々から農業を営んできた貴重な水田、畑、開墾地(「でい」と呼ばれていました。)でした。

現在のような耕運機もなくすべてを鋤を使って耕していたそうで、特に水田は土を軟らかくするため周りの草を入れて3回耕して、はじめて稲の苗を植えたそうです。

両親は一日中、水田、畑仕事で忙しく、家に戻るにも30分以上かかるため、子ども達がお弁当を届けていたそうで家族全員で農作業にあたっていました。

光明寺の前には、本郷小学校の分教場がありました。たくさんの谷戸の名前が現在の町の名前になり、わずかに当時を偲ぶことが出来ます。さあ、この地図を片手に昔の名残りを探してみませんか。

(みなもと・源)

切りとり線

## 美しい自然に富むいたち川

『よみがえったいたち川』新聞で知り、自然が大好きな私は、ハイキングの仲間の人達と時々散策に出かけます。すっかりいたち川ファンになってしまいました。

プロムナードには四季折々の花が咲き、川に泳ぐカルガモ、大きな鯉、鳥たちが目を楽しませてくれます。「あつ、ゴイサギが魚をつっついていきます。」この年齢(?)で初めて見る光景に感動してしまいました。

昇龍橋付近でカワセミの姿を見ることができ、本当にラッキーでした。

今回は瀬上沢小川アメニティで見たホタルの幻想的な乱舞にただただ時間を忘れて鑑賞しました。

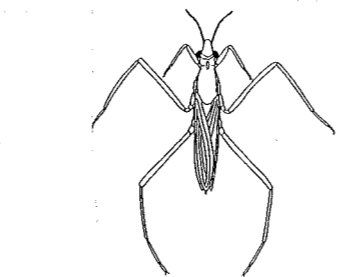
自然はみんなの掛け替えのない財産です。豊かな感性や想像力を育ててくれます。団地やマンションが建ち並ぶ都会の川が多彩な多自然型工法によって故郷の川のように蘇り、人の手によって保全されているように思われません。

子どもたちの格好の遊び場となり、水遊び、川辺の生き物に触れ、自然が一杯体験できる環境に整備されている場所は他市では見られないことです。

茅ヶ崎市を流れている千の川は、ヘドロ状態の中を魚が泳ぎ、サギ鳥たちも遊びに来ますが、酸欠状態です。川辺を犬と散歩をする度に、なんとか整備されて綺麗な川にならないものかと思いつらされています。

(茅ヶ崎市在住一市民)

## いたち川周辺の生き物⑧ 恐者のように水の土を歩くアメンボ



昨年春号(通刊9号)でゲンジボタル、ヘイケボタルを紹介しましたが、水辺を生活の場としている昆虫は、いろいろといます。

水辺で最もよく目に付く昆虫で、わずかな水溜まりができて、どこからとなく飛んでくるものに、アメンボがいます。

カメムシの仲間、アメンボという名は、体臭が鉛のように甘い香りがし、体形が棒のように細長いので、鉛棒(アメンボウ)といわれていたことに由来しています。

アメンボ科の昆虫は、前脚が短く、中脚・後脚が大変長いのが特徴です。水面を滑走して水面に落ちる小昆虫を捕食します。集団で泳いでいるのを見ることがあります。

米区内では、体長一四センチほどのアメンボと体長一〇センチほどのヒメアメンボが棲んでいます。どちらも四〜十月に出現し、市街地でも見ることが出来ます。県内には、体長二五センチほどの最も大型のオオアメンボがいますが、丹沢や箱根の山麓部まで行かないと見られないそうです。

日本には約二〇種ほどいるそうですが、ウミアメンボと呼ばれる海生種も六種ほど発見されているそうです。

水面で生活するカメムシ類には、アメンボ科の他にイトアメンボ科、カタヒロアメンボ科があります。

(いもり)